

# OECD 東北スクール・最近の動き

▶2012年11月10日、文部科学省が主催する生涯学習ネットワークフォーラム・福島分科会が福島市で開催されました。「OECD東北スクール」について、スタッフから報告され、全国から集まった参加者から様々な質問をいただきました。



▶11月19日、OECD日本政府代表部吉川元偉大使が福島大学を表敬訪問され、OECD東北スクールスタッフと懇談されました。また、その後いわき市の津波被災地を視察し、OECD東北スクール・いわき市チームと交流しました。イベントについて様々なアドバイスをいただきました。



▶12月25日、東日本の被災者支援と東京オリンピック招致を目的としたチャリティイベント Cheer! NIPPON に、OECD東北スクールが招待され、60人あまりの生徒が参加しました。ア

スリートとの懇談会もセッティングされ、当初予定になかった王監督や川淵会長も飛び入り参加し、様々なアドバイスをいただきました。また、なでしこジャパンやJリーグの選手の皆さんにたくさんのチャリティグッズをご寄贈いただきました。これらの品々はオークションにかけられ、プロジェクトの資金として活用させていただきます。



▶12月26日、チーム〈環〉として初陣となる、ユニクロ/ファーストリテイリング本社にて、プロジェクトのプレゼンテーションを生徒たちが行いました。たいへんな好評をいただき、今後の協力関係に対して様々なアドバイスをいただきました。



▶12月31日ユニクロのプロジェクト Clothes for Smiles に応募しました。同プロジェクトは、同社ファンドを人材育成に活用



するためのアイディアを世界中から募集するというもので、最終日に応募したにもかかわらず、一般審査で739 アイディア中4位となる大健闘を見せました。2月末現在、一次審査にかけられています。

■ Clothes for Smiles

「東日本大震災の被災を乗り越え、新しく生まれ変わった東北を世界にアピールすること」それが私達の夢。そのためのイベントを2014年8月にフランスのパリで、被災地の中高生である私達が企画・実行。イベントに大人を、日本を、世界を巻き込み、希望にあふれる未来を創り出す。その担い手は私達！

佐藤隆  
2012/12/31 12:52  
所在地：日本 投稿言語：日本語

投稿されたアイデアを見る  
商品を購入して参加  
このプロジェクトについて

日本語 翻訳

Google翻訳の翻訳サービスを使用しています  
Google 翻訳について

私は、福島、宮城、岩手の被災地から集まった約100名の中高生です。私はそれぞれ、津波で家族や夢を失ったり、原発事故で故郷に帰れなくなったという経験を持っています。この厳しい現実を乗り越え、希望ある未来を創造するためには、私達はもっと強くならなければなりません。

現在、OECD東北スクールという、日本の問題、世界の問題を考え、未来のリーダーを育てる学校で、2年次に進んで課題の発見・解決のためのスキルや、リーダーシップを国内外の著名な方々と学んでいます。そして2014年8月にパリで、「私達中高生が自らの力で東北地方・日本の魅力を世界にアピールする国際的なイベント」を企画し、実行することが私達の目的です。ただし、私達だけでは困難なので、異世代の人や東北圏外の人、地方自治体や政府、大手企業、国際機関を巻き込もうと活動中です。その過程で次世代を担うリーダーに成長していくことを、更なる大きな目的として掲げ、一過性なものではなく、持続的な活動につなげる努力をしている最中です。

私達が企画するイベントの基本コンセプトは「東日本大震災の悲劇を乗り越え新しい時代をつくる」という思いを託し「死と再生～未来へつなぐ～」と設定しました。イベントの案として、「過去・あの日・それから」を大きなスクールのアートで表現する巨大ドミノや巨大パルーン、被災地の現状を伝える写真展、各地域で再生を遂げた伝統芸能や産業の紹介をパリの街中で展開したいと考えています。2013年3月までに具体的な案を決定します。

どのイベント案にも「コンセプトに沿ったストーリー性」を盛り込みます。例えば、巨大ドミノは参加型イベントにしようと考えており、一瞬で倒れていくドミノは津波などの震災をイメージしています。そしてドミノの配置や仕掛けに観客の皆さんにも参加してもらおうと考えていて、その姿は世界とつながりながら復興していくイメージを彷彿とさせます。さらに、そのドミノの下から私達がイメージする東北の未来を描いたアートが登場するのです。このような、震災から未来へのストーリー・思いを伝えます。他のイベントにもそれぞれ意味を盛り込み、東北再生の物語を壮大に構築していきます。

イベントイメージ  
パリ・エッフェル塔前  
巨大パルーン  
巨大ドミノ

▶第2回OECD東北スクールの終了後、ほぼ毎月ローカルリーダー会議と生徒たちの担当リーダー会を実施しています。ローカルリーダー会議では、運営組織や今後のプロジェクトの進行に関して、また様々なイベントについて協議されています。



また、生徒によるリーダー会議では、各ローカルチームの現状や「イベント担当」「産官学連携担当」「コミュニケーション担当」「セルフドキュメンタリー担当」それぞれの内容について進捗状況や協力関係について話し合われています。



▶2013年2月4日、OECD教育局次長兼事務総長教育顧問アンドレアス・シュライヒャー氏が福島を訪れました。伊達市チームを訪問し、J Aと共同開発した果実のゼリーを手にとりて喜ばれ、「マーケットを調査して成功させるように」とアドバイスをいただきました。



またその後会津若松市に避難している大熊中チームを訪問し、これまでの経緯について報告を受け、それらを記録として残すように要請されました。

▶同日、福島大学にて「教育復興とイノベーション」というテーマで講演されました。世界が今どのような教育を必要としているのか、そしてそのような中で日本の教育に何が必要なのか、さらには復興教育におけるイノベーションの重要性が語られました。



▶さらに、晩餐会の中で東北の復興教育を今後も注視していただけることを表明いただきました。

